

# スーパーマーケット販売統計調査資料

2015年11月実績 速報版(パネル275)

10月実績 確報版

(12月21日公表)

## 調査資料概要

### 【パネル集計】

食品を中心に扱うスーパーマーケットを対象に同一企業を集計

※2015年4月実績よりパネル対象企業変更(285社→275社)

### 【集計項目】

商品分類別・エリア別・保有店舗別集計

集計企業数、総店舗数、総売場面積、店舗平均月商、売場1㎡あたり売上高

### 【速報版・確報版】

速報版:毎月21日前後に前月販売実績を速報値として公表

確報版:速報値に精度の高い集計を行い確報値として公表

### 【全店・既存店】

全店:前年同月全営業店舗と当月全営業店舗の比較

既存店:前年同月、当月共に営業の店舗による比較

## 【商品分類】

総売上高	食品合計	生鮮3部門	青果	野菜類、果実類、花
			水産	魚介類、塩干物
			畜産	食肉類、肉加工品
		惣菜	惣菜、折詰料理、揚物、弁当、おにぎり、寿司、インスタペーパー、ファーストフード	
	日配	豆腐、こんにゃく、納豆、練製品、佃煮、漬物、パン、卵、乳製品、生菓子、冷凍食品、アイスクリーム		
	一般食品	調味料、瓶缶詰、乾物、米、小麦粉、乾麺、嗜好品、菓子、酒類		
	非食品	日用雑貨品、医薬・化粧品、家具インテリア、家電製品、婦人衣料、紳士衣料、文具、玩具		
その他	テナント売上高、タバコ・ギフト販売、その他取次業(DPE、クリーニング、宅配便、レンタル、チケット販売等)			

## 【地方分類】

北海道・東北地方	北海道、青森、岩手、秋田、宮城、山形、福島
関東地方	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
中部地方	新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
近畿地方	三重、滋賀、奈良、和歌山、京都、大阪、兵庫
中国・四国地方	岡山、広島、鳥取、島根、山口、香川、徳島、愛媛、高知
九州・沖縄地方	福岡、佐賀、長崎、大分、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄

※2014年4月実績よりエリア区分を8地方区分による6地方に変更

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会

オール日本スーパーマーケット協会

一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査に関するお問い合わせ

tokei@super.or.jp

2015年12月21日

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会  
 オール日本スーパーマーケット協会  
 一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査  
 2015年11月実績 速報版 (パネル275)

	全店売上高 (万円)	構成比	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
総売上高	82,597,272	100.0%	102.1%	100.3%
食品合計	73,213,885	88.6%	102.7%	100.7%
生鮮3部門合計	27,390,918	33.2%	102.7%	100.5%
青果	10,420,036	12.6%	105.0%	102.8%
水産	7,386,067	8.9%	101.5%	99.3%
畜産	9,584,815	11.6%	101.3%	99.1%
惣菜	7,846,227	9.5%	104.2%	101.7%
日配	15,991,655	19.4%	103.0%	101.0%
一般食品	21,985,086	26.6%	102.1%	100.3%
非食品	6,889,059	8.3%	97.0%	96.0%
その他	2,494,376	3.0%	96.8%	96.8%

## 地方分類別集計

エリア	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
北海道・東北地方	12,979,585	49	102.3%	101.5%
関東地方	29,427,321	70	102.6%	100.4%
中部地方	9,731,848	58	101.0%	99.4%
近畿地方	17,398,667	34	101.2%	99.7%
中国・四国地方	8,089,576	36	103.9%	100.7%
九州・沖縄地方	4,970,275	28	101.6%	101.6%

## 保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
1~3店舗	906,223	57	97.3%	98.3%
4~10店舗	3,463,754	67	100.8%	99.7%
11~25店舗	9,549,294	64	99.9%	99.0%
26~50店舗	15,064,163	45	101.8%	100.3%
51店舗以上	53,613,838	42	102.8%	100.7%

集計企業数 (社)	275	既存店総売上高 (万円)	80,208,093
総店舗数 (店舗)	7,449	店舗平均月商 (万円)	11,088
総売場面積 (㎡)	12,692,820	売場1㎡あたり売上高 (万円)	6.5

※売上高は税抜金額

※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

2015年12月21日

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会  
 オール日本スーパーマーケット協会  
 一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査  
 2015年10月実績 確報版 (パネル275)

	全店売上高 (万円)	構成比	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
総売上高	85,044,048	100.0%	104.1%	102.0%
食品合計	75,867,839	89.2%	104.4%	102.2%
生鮮3部門合計	28,960,788	34.1%	105.1%	102.6%
青果	11,899,894	14.0%	108.1%	105.6%
水産	7,442,562	8.8%	103.2%	100.8%
畜産	9,618,332	11.3%	102.9%	100.5%
惣菜	8,241,551	9.7%	107.0%	104.2%
日配	16,417,016	19.3%	103.9%	101.8%
一般食品	22,248,483	26.2%	103.0%	101.1%
非食品	6,611,046	7.8%	101.7%	100.8%
その他	2,565,208	3.0%	100.1%	99.3%

## 地方分類別集計

エリア	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
北海道・東北地方	13,145,272	49	104.2%	102.8%
関東地方	30,434,617	70	104.4%	101.8%
中部地方	10,153,037	58	104.8%	102.3%
近畿地方	17,669,845	34	102.8%	101.6%
中国・四国地方	8,475,077	36	105.8%	102.0%
九州・沖縄地方	5,166,199	28	102.4%	101.9%

## 保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
1~3店舗	937,184	57	99.8%	100.9%
4~10店舗	3,650,198	67	102.3%	100.9%
11~25店舗	9,848,173	64	102.0%	100.6%
26~50店舗	15,724,449	45	103.9%	102.2%
51店舗以上	54,884,044	42	104.6%	102.3%

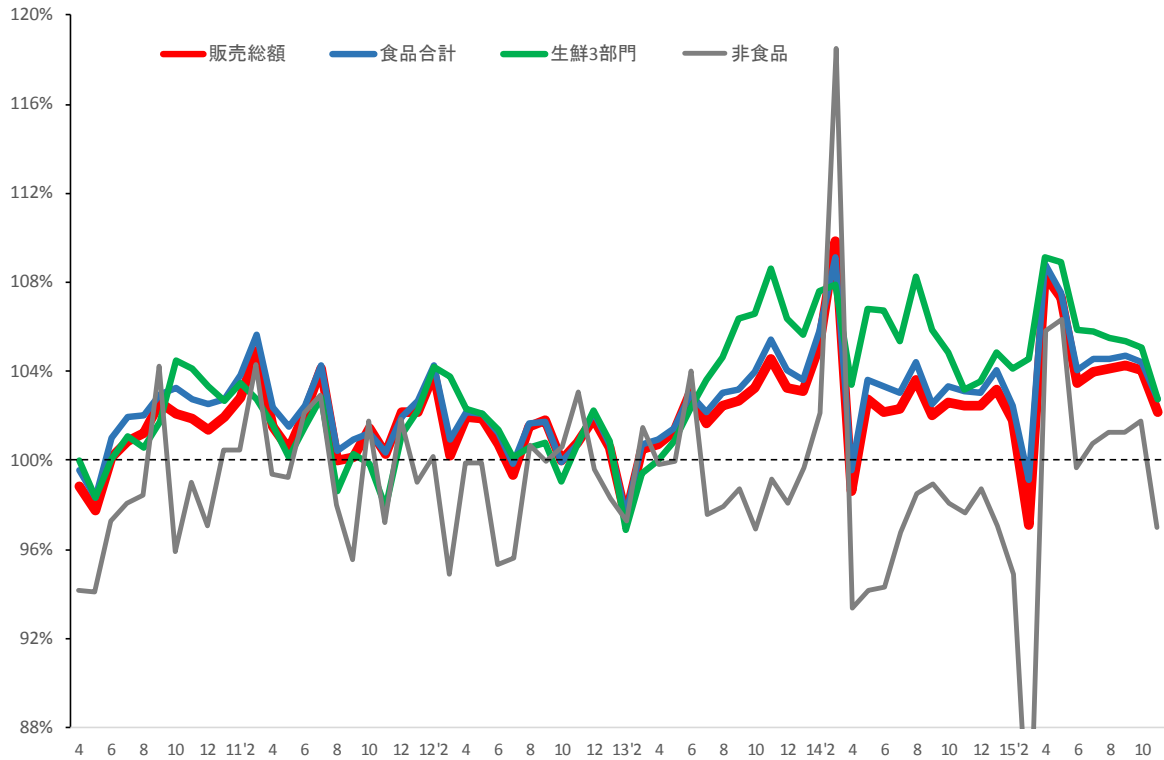
集計企業数 (社)	275	既存店総売上高 (万円)	82,430,301
総店舗数 (店舗)	7,437	店舗平均月商 (万円)	11,435
総売場面積 (㎡)	12,679,862	売場1㎡あたり売上高 (万円)	6.7

※売上高は税抜金額

※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

スーパーマーケット販売統計推移 2010年4月～2015年11月(全店ベース対前年同月比)

販売総額・食品合計・生鮮3部門・非食品

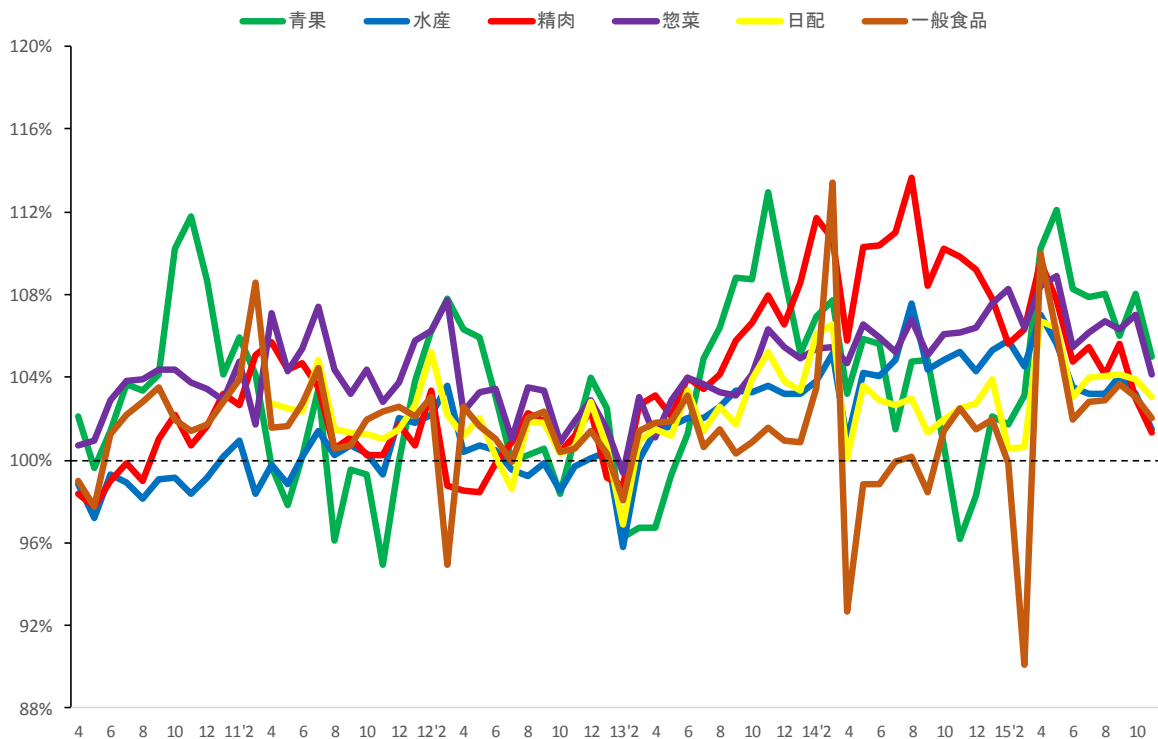


※2010年4月～2015年10月までは確報版による前年同月比、2015年11月は速報版による前年同月比

※2011年3月までは、「非食品」に「その他」を含む

スーパーマーケット販売統計推移 2010年4月～2015年11月(全店ベース対前年同月比)

青果・水産・畜産・惣菜・日配・一般食品



※2010年4月～2015年10月までは確報版による前年同月比、2015年11月は速報版による前年同月比

※2011年3月までは、「一般食品」に「日配」を含む

## 2015年11月エリア別気候状況

### 1. 平均気温：全国的に気温が高く、沖縄・奄美では月平均気温の記録を更新した

北日本で高く、東・西日本と沖縄・奄美でかなり高かった。長野(長野県)、京都(京都府)など20地点で11月の月平均気温の高い方から1位の値を更新し、水戸(茨城県)、那覇(沖縄県)など7地点で1位タイの値を記録した

**2014年11月との比較：**気温差の大きい中旬は前年より4～5度前年より高く、下旬は前年に比べ低くなった地域が多かった

	平年との比較(°C)						今年と前年との差(°C)		
	2015年11月			2014年11月(前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北海道地方	0.6	1.9	-1.2	1.9	-0.6	2.2	-1.3	2.5	-3.4
東北地方	1.1	3.0	0.5	1.1	-1.0	2.1	0.0	4.0	-1.6
関東甲信地方	1.4	3.3	1.3	1.6	-0.7	2.3	-0.2	4.0	-1.0
北陸地方	1.6	2.9	0.8	0.4	-1.4	3.1	1.2	4.3	-2.3
東海地方	1.2	3.1	1.1	1.5	-1.0	2.3	-0.3	4.1	-1.2
近畿地方	1.7	3.2	1.0	0.7	-1.3	2.9	1.0	4.5	-1.9
中国地方	1.6	3.2	0.8	0.4	-1.3	3.0	1.2	4.5	-2.2
四国地方	1.6	3.4	1.2	0.6	-1.4	3.1	1.0	4.8	-1.9
九州北部	1.7	4.1	1.3	0.3	-1.5	3.3	1.4	5.6	-2.0
九州南部・奄美地方	1.5	3.8	1.2	0.6	-1.5	2.9	0.9	5.3	-1.7

#### 平年差



#### 前年差



### 2. 日照時間：北・東日本太平洋側と西日本で日照時間がかなり少なかった

東日本日本海側で少なく、北・東日本太平洋側と西日本でかなり少なかった。大分(大分県)、徳島(徳島県)など5地点で11月の月間日照時間の少ない方から1位の値を更新した。一方、北日本日本海側と沖縄・奄美では多かった。

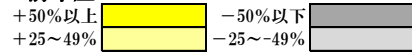
**2014年11月との比較：**中旬と下旬で前年に比べ日照時間が少ない地域が多くなった

	日照時間 平年比(%)						今年と前年との差(%)		
	2015年11月			2014年11月(前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北海道地方	114	120	91	99	110	147	15	10	-56
東北地方	89	114	64	100	92	117	-11	22	-53
関東甲信地方	96	60	76	79	116	87	17	-56	-11
北陸地方	91	89	63	90	97	133	1	-8	-70
東海地方	94	62	78	82	108	98	12	-46	-20
近畿地方	77	77	82	74	115	119	3	-38	-37
中国地方	69	73	83	93	106	114	-24	-33	-31
四国地方	66	78	72	80	120	106	-14	-42	-34
九州北部	94	60	56	96	107	89	-2	-47	-33
九州南部・奄美地方	78	78	76	81	111	91	-3	-33	-15

#### 平年差



#### 前年差



### 3. 降水量：北・東日本太平洋側と西日本で、降水量がかなり多かった

東日本太平洋側と西日本日本海側で多く、北日本太平洋側と西日本太平洋側でかなり多かった。一方、北日本日本海側では少なかった。東日本日本海側と沖縄・奄美は平年並だった。

**2014年11月との比較：**中旬で前年との差がかなり大きく降水量が多い地域が多かった。一方下旬は前年より降水量が少ない地域が多かった。

	降水量 平年比(%)						今年と前年との差(%)		
	2015年11月			2014年11月(前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北海道地方	78	98	220	111	63	30	-33	35	190
東北地方	154	135	168	67	56	123	87	79	45
関東甲信地方	195	274	101	69	22	205	126	252	-104
北陸地方	89	90	100	91	101	79	-2	-11	21
東海地方	145	261	82	114	17	150	31	244	-68
近畿地方	175	301	46	106	8	150	69	293	-104
中国地方	169	370	48	121	18	190	48	352	-142
四国地方	141	345	40	100	7	176	41	338	-136
九州北部	106	403	61	106	8	246	0	395	-185
九州南部・奄美地方	70	407	81	136	23	175	-66	384	-94

#### 平年差



#### 前年差



気象庁ホームページ・報道発表資料「11月の気候」を参照  
 平年値は過去30年(1981年~2010年)の平均  
 スーパーマーケット統計事務局作成

# スーパーマーケット景気動向調査

2015年12月調査結果（11月実績）  
（12月21日公表）

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

## 【経営動向調査】

1. 経営状況：「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」  
スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について

- ・前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの5段階で評価
- ・前年同月を100とした当月の値を調査 ※2014年4月実績より

2. カテゴリー動向：「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」  
スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、

- ・前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの5段階で評価
- ・各カテゴリーの好不調要因についてのコメント

---

経営動向調査DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+0.5・やや改善+0.25・変わらない±0・やや悪化-0.25・かなり悪化-0.5

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「0」

## 【景況感調査】

1. 景況感：「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、
- ・2～3ヵ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」まで5段階で評価
  - ・今後2～3ヵ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの5段階で評価

---

景況感DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+1.0・やや改善+0.75・変わらない+0.5・やや悪化+0.25・かなり悪化+0

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「50」

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会  
オール日本スーパーマーケット協会  
一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

## 12月調査（11月実績）結果概況

### 景気判断DIは現状判断45.8と悪化、5月をピークとした下降トレンドが鮮明に

11月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断DI 現状判断は前月から-4.4の45.8、見通し判断前月から-3.3の43.4となり、共に大きく悪化する結果となった。

経営動向調査結果はすべてのDIが前月に比べマイナスとなっている。なかでも生鮮品仕入原価DIが青果相場下落の影響により7.6（前月比-6.8）と12カ月ぶりに一桁プラスの水準まで低下、また来客数DI-11.0（前月比-7.0）と二桁のマイナスを記録した。販売価格DIや客単価DIも小幅に低下しており、その影響により売上高DI-3.3（前月比-6.6）を大きく悪化させているとみられる。

カテゴリ動向結果でも、すべてのカテゴリで前月に比べマイナスとなっている。なかでもこれまで好調な動向を牽引していた生鮮3部門（青果DI/畜産DI/水産DI）で落ち込みが大きくなっている。11月が平年に比べ気温が大幅に高く、鍋等の冬物商材の動きが鈍かったことや一部の生鮮品相場が下落したことなどが影響していると考えられる。（カテゴリ動向については最終ページに詳細を掲載）

景況感調査は、前月はわずかに持ち直しをみせたものの、当月は一転して大きく悪化する結果となった。各DIの推移グラフや周辺地域景気判断DIの長期傾向でも景況感は5月をピークとした下降トレンドが鮮明になっている。（景況感DI推移グラフ、周辺地域景気動向DI長期傾向参照）

季節外れの気候に加え、これまで売上を牽引してきた生鮮品が伸び悩むなど強い逆風を受けた月となった。6月以降は来客数DIのマイナスを客単価DIのプラスでカバーする状況が続いていたが今月はどちらも低下する結果となっている。次月以降も来客数DIと客単価DIの動向を注視する必要がある。

### 景況感調査

#### 現状判断

景気判断DI  
当月：45.8（-4.4）  
前月：50.2

消費者購買意欲DI  
当月：46.8（-2.4）  
前月：49.2

周辺地域 競合状況DI  
当月：41.6（-1.4）  
前月：43.0

店舗周辺地域 景気判断DI  
当月：46.7（-1.4）  
前月：48.1

#### 見通し判断

景気判断DI  
当月：43.4（-3.3）  
前月：46.7

消費者購買意欲DI  
当月：45.0（-3.2）  
前月：48.2

周辺地域 競合状況DI  
当月：40.3（-0.3）  
前月：40.6

店舗周辺地域 景気判断DI  
当月：46.4（-0.3）  
前月：46.7

### 経営動向調査

#### 経営状況

売上高DI  
当月：-3.3（-6.6）  
前月：3.3

収益DI  
当月：-2.7（-3.7）  
前月：1.0

販売価格DI  
当月：8.0（-3.2）  
前月：11.2

客単価DI  
当月：7.9（-1.4）  
前月：9.3

来客数DI  
当月：-11.0（-7.0）  
前月：-4.0

生鮮品仕入原価DI  
当月：7.6（-6.8）  
前月：14.4

食品仕入原価DI  
当月：10.8（-1.7）  
前月：12.5

#### カテゴリ動向

青果DI  
当月：4.6（-10.6）  
前月：15.2

水産DI  
当月：-7.0（-5.7）  
前月：-1.3

畜産DI  
当月：-2.8（-5.9）  
前月：3.1

惣菜DI  
当月：6.1（-5.0）  
前月：11.1

日配DI  
当月：-0.8（-3.4）  
前月：2.6

一般食品DI  
当月：-1.8（-2.0）  
前月：0.2

非食品DI  
当月：-11.7（-6.7）  
前月：-5.0

○ 内は前月DIとの増減、赤字はマイナス

# 12月調査（11月実績）結果詳細 I. 経営動向調査（2011年4月～）

## 1. 売上高DI

3月以来8ヵ月ぶりにマイナス圏に

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
売上高（前月）	4.4	21.8	32.0	39.6	2.2	3.3
売上高（当月）	7.4	26.0	39.7	26.5	0.5	-3.3



## 2. 収益DI

3月以来8ヵ月ぶりにマイナス圏に

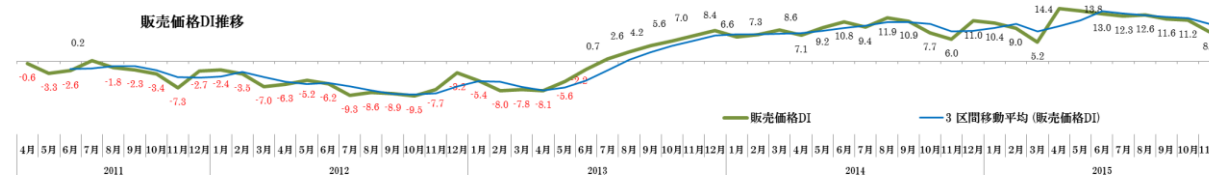
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
収益（前月）	5.0	21.7	39.4	32.1	1.8	1.0
収益（当月）	3.5	32.2	39.1	22.3	3.0	-2.7



## 3. 販売価格DI

引き続きプラス圏で推移もゆるやかに下降傾向

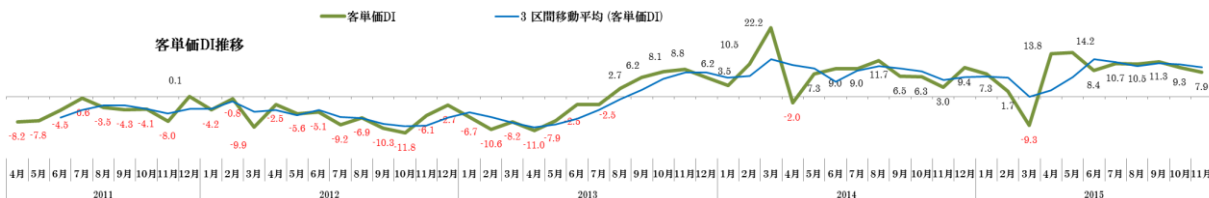
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
販売価格（前月）	0.0	5.4	46.6	45.7	2.2	11.2
販売価格（当月）	0.5	7.4	52.5	38.6	1.0	8.0



## 4. 客単価DI

引き続き高水準を維持し8ヵ月連続のプラスもゆるやかに下降傾向

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
客単価（前月）	0.0	12.6	38.6	48.0	0.9	9.3
客単価（当月）	0.0	10.8	47.3	41.4	0.5	7.9



## 5. 来客数 DI

やや大きく下降し6ヵ月連続のマイナス

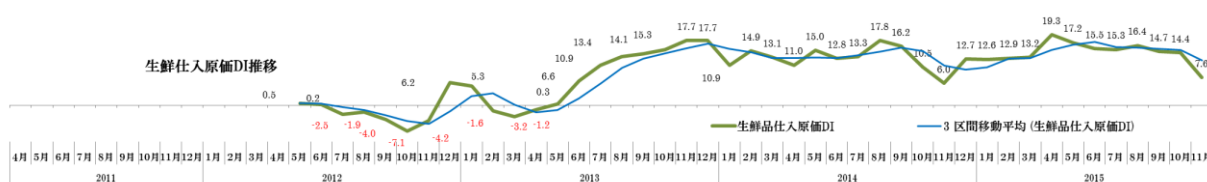
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
来客数 (前月)	4.9	33.0	36.6	24.1	1.3	-4.0
来客数 (当月)	10.4	38.1	37.1	13.9	0.5	-11.0



## 6. 生鮮仕入原価 DI

2014年11月以来の一桁水準まで低下

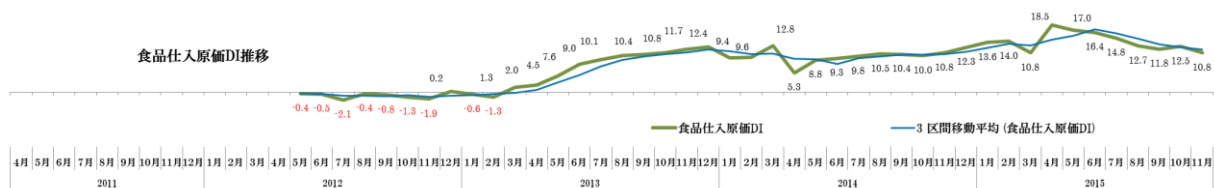
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
生鮮仕入原価 (前月)	0.9	6.3	33.5	52.9	6.3	14.4
生鮮仕入原価 (当月)	2.5	8.5	48.0	38.0	3.0	7.6



## 7. 食品仕入原価 DI

ゆるやかに下降傾向も引き続き高水準を維持

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
食品仕入原価 (前月)	2.3	3.6	39.6	50.9	3.6	12.5
食品仕入原価 (当月)	1.5	3.5	47.3	45.8	2.0	10.8

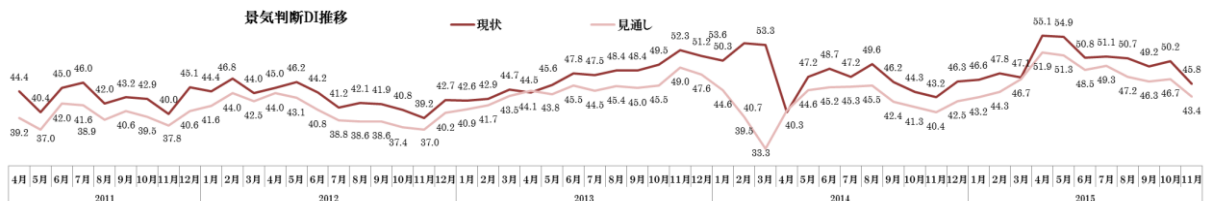


## II. 景況感調査 (2011年4月～/周辺地域景気判断のみ2010年4月～)

### 1. 中核店舗景気判断 DI

現状、見通し判断共に悪化

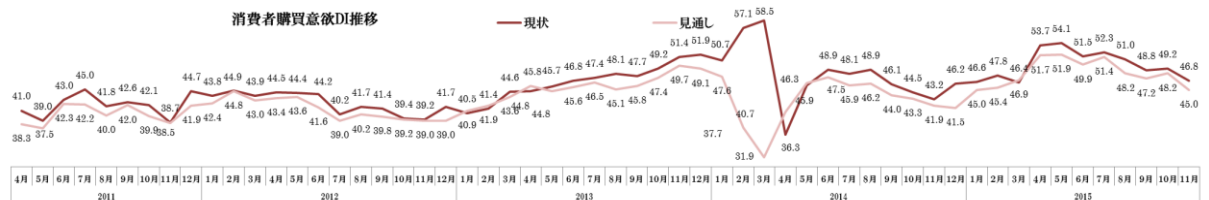
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】景気判断 (前月)	0.9	15.1	66.2	17.8	0.0	50.2
【現状】景気判断 (当月)	1.5	27.2	57.9	13.4	0.0	45.8
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】景気判断 (前月)	1.3	24.9	59.6	14.2	0.0	46.7
【見通し】景気判断 (当月)	2.0	33.2	54.0	10.9	0.0	43.4



### 2. 消費者購買意欲 DI

現状、見通し判断共に悪化

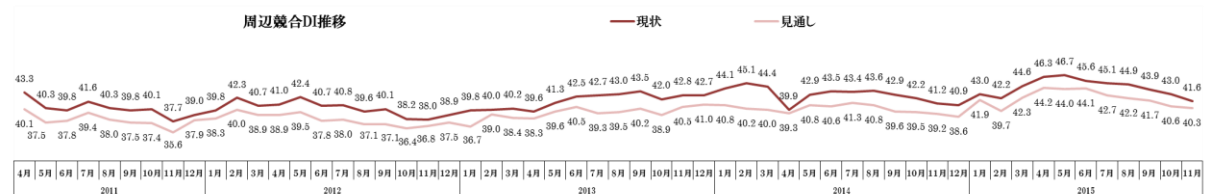
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】購買意欲 (前月)	0.4	13.3	75.1	11.1	0.0	49.2
【現状】購買意欲 (当月)	0.0	23.3	66.3	10.4	0.0	46.8
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】購買意欲 (前月)	0.4	17.4	71.0	11.2	0.0	48.2
【見通し】購買意欲 (当月)	0.0	26.7	66.3	6.9	0.0	45.0



### 3. 中核店舗周辺競合状況 DI

ゆるやかに下降傾向をたどる

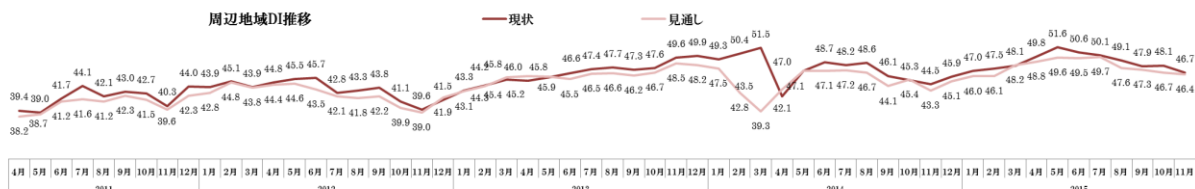
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】競合状況 (前月)	4.4	22.7	69.8	2.7	0.4	43.0
【現状】競合状況 (当月)	5.0	26.2	66.3	2.5	0.0	41.6
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】競合状況 (前月)	5.8	28.4	64.0	1.3	0.4	40.6
【見通し】競合状況 (当月)	5.4	30.2	61.9	2.5	0.0	40.3



#### 4. 中核店舗周辺地域景気判断DI

共に50を割り込む水準でゆるやかに下降傾向

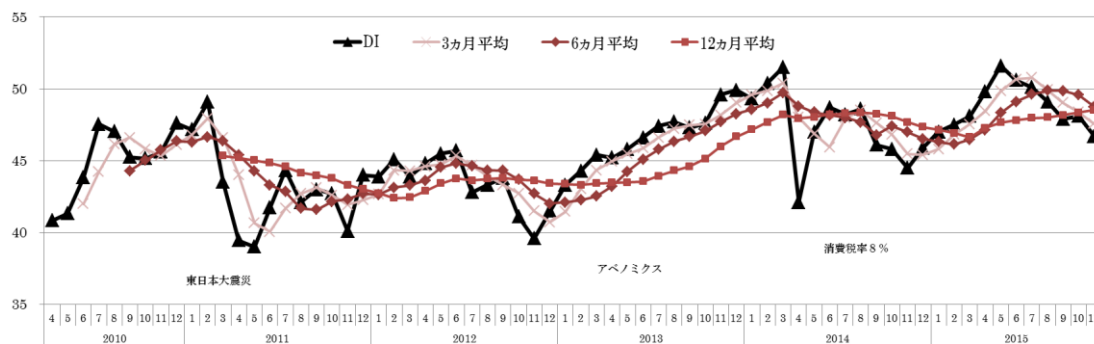
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】地域景気(前月)	0.0	11.6	84.4	4.0	0.0	48.1
【現状】地域景気(当月)	1.0	14.4	81.7	3.0	0.0	46.7
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】地域景気(前月)	0.4	16.5	79.0	4.0	0.0	46.7
【見通し】地域景気(当月)	0.0	17.8	78.7	3.5	0.0	46.4



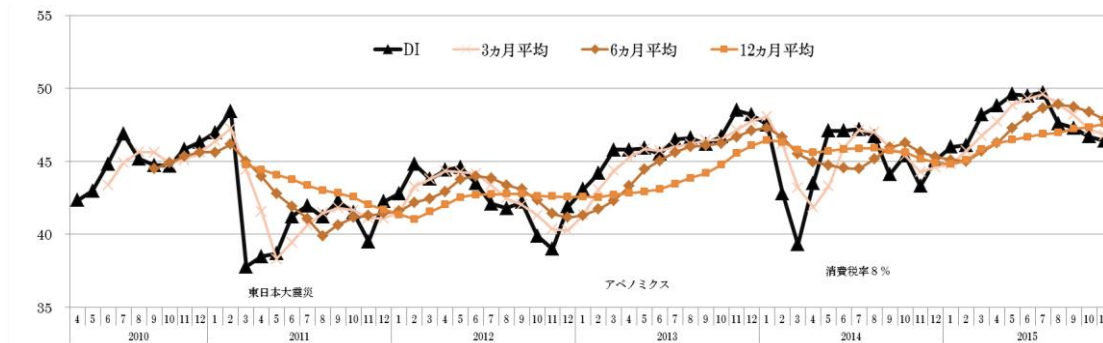
#### 長期傾向 (2010年4月～)

2012年11月以降上昇を続けていた「中核店舗周辺地域景気判断DI」は、2014年4月の消費税率引き上げの影響を受け下落した。その後、5月に持ち直すものの、6月～8月まで横ばい推移、9月～11月では再び下落となった。消費税率引き上げ後、3ヵ月周期でトレンドが変化し、方向感の見えにくい状況であったが、12月以降は6ヵ月連続の改善となり、2015年5月には調査開始以降で最高水準にまで上昇をみせた。その後6月以降は一転して下落が続いている。直近11月は下落の速度がやや早まった。引き続き12ヵ月平均線のみがわずかなプラスを維持しているものの、他の平均線はマイナス方向に転換している。

#### 現状判断 (中長期傾向)



#### 見通し判断 (中長期傾向)



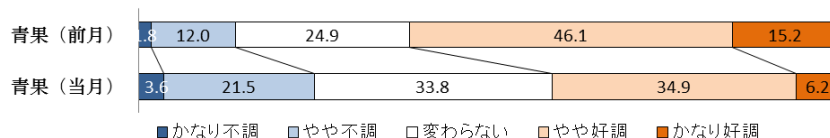
### Ⅲ. カテゴリー別動向

#### カテゴリー別動向 DI による好不調判断

かなり好調：20 以上・好調：10～20・やや好調：0～10

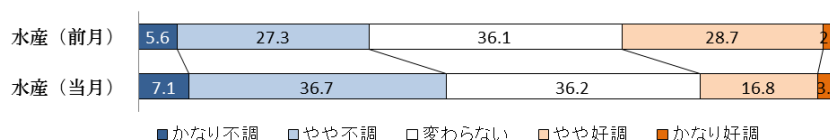
かなり不調：-20 以下・不調：-20～-10・やや不調：-10～0

#### 1. 青果 DI：4.6（やや好調）



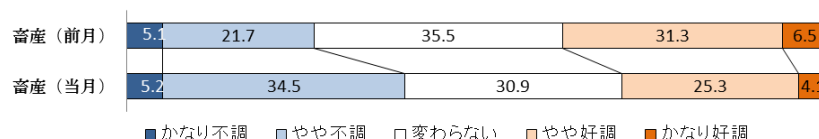
月を通じて気温が高い気候となったために鍋物商材、特に菌茸類に影響があったほか、野菜類は中旬以降相場安傾向となりその対応により好不調分かれる結果となった。サラダ関連のレタスやトマトは好調であったとのコメントが多い。果物ではみかんは好調とするコメントが比較的多く、一方でりんごやいちごは相場が高く不調とするコメントが多くなった。

#### 2. 水産 DI：-7.0（やや不調）



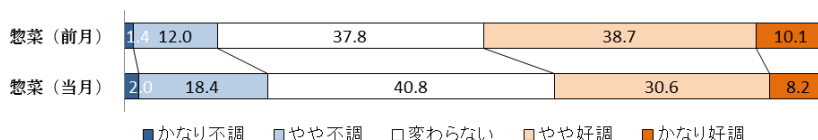
生鮭やさんまの不漁、かきが生育不良による小型化や、気温が高い状況により鍋物需要が大きく低下した影響によりやや不調となった。一方で刺身や切り身は好調に推移したとのコメントが散見された。

#### 3. 畜産 DI：-2.8（やや不調）



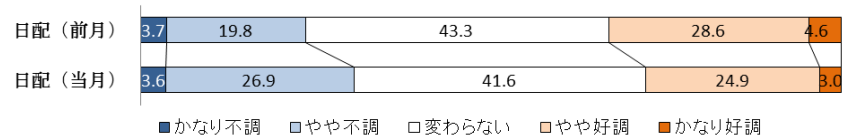
気温が高い影響で鍋用商材が非常に鈍くなったことや肉加工品について発がん性報道から特にハム、ウインナーの落ち込みが大きかったためやや不調となった。価格の安い輸入牛などが好調である一方で、国産牛は引き続き相場が高く不調とのコメントが多い。豚肉は相場が安定してきたため、好調とのコメントが多い。

#### 4. 惣菜 DI：6.1（やや好調）



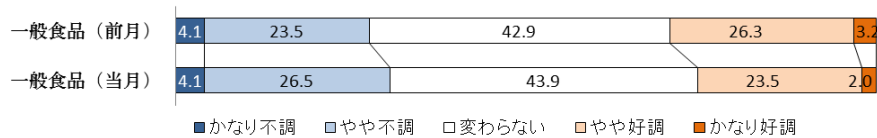
新商品の投入や出来立て提供など取組み成果によりお弁当や揚物が好調とするコメントが多くみられた一方で原材料価格の上昇や人員不足により利益の確保が難しいとのコメントも散見された。

## 5. 日配 DI：-0.8（やや不調）



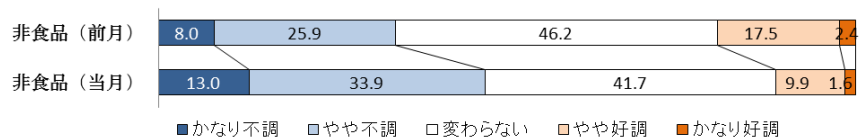
気温が高い影響で鍋用商材が非常に鈍くなったが、一方で飲料系は好調となった。また健康を意識したヨーグルト飲料をはじめとする乳製品やプレミアム系のアイスクリームが好調とのコメントがみられた。

## 6. 一般食品：-1.8（やや不調）



鍋関連需要としてのつゆ等が不振であった一方で、米は前年より価格が上昇しており好調とするコメントが多かった。引き続き健康訴求の食用油が好調とのコメントがみられる。値上げ等による単価の上昇による売上高への貢献を指摘するコメントが散見された。

## 7. 非食品 DI：-11.7（不調）



カイロをはじめとする冬物商材の動きが悪かったことやドラッグストアやホームセンターとの価格競争により不調となった。

## 2015年12月調査（11月実績）キーワードTOP3

1. 気温が高い
2. 青果相場中旬以降下落
3. 他業態との競合

## スーパーマーケット景気動向調査

11月実績速報版集計 204社  
10月実績確報版集計 225社

## スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ

[tokei@super.or.jp](mailto:tokei@super.or.jp)